須賀川市教育研修センターだより　第 101 号

# 「みち」

令和２年８月１９日 発行

## ２学期がスタート！

授業日確保のために夏季休業日が１８日間に短縮され、例年とは異なった夏休みとなったことと思います。(思い返せば昨年の夏休みも祝日等の関係から２日間の授業日が設定されました。) しかし、短くなった夏休みでも、子どもたちはさまざまな体験を通して、一回り大きく成長して２学期を迎えたのではないでしょうか。

教育研修センターでの夏のセミナー研修は、今年度は中止としましたが、意識を変えると校内のさまざまな場面に研修の機会はあります。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、現職教育を中心に進めることはもちろんですが、日頃の授業について職員室でお茶を飲みながら気軽に語り合うことの中にも研修の機会はあります。活気と潤いのある職員室であるからこそできる授業づくりもあります。

子どもたちの成長がたくさん見られる２学期にしたいものです。

## 校内研修から！

７月１５日（水）の阿武隈小学校の校内研修会において、元郡山市立金透小学校長、元福島大学総合教育研修センター教授の宮前貢先生の講話がありました。新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた、学校そして教職員のやるべき方向性を“こんなときだからこそ、「あせらず、じっくりと」”と題しての講話でした。

その一部を紹介します。

〇３ヶ月にも渡る臨時休校の中で

保護者は家庭で過ごす子どもの様子に愚痴をこぼしながら、毎日面倒を見ている学校・教師の取り組みの「底力」を実感した。

子どもたちは「毎日、つまんない。友達と一緒が一番いい」と強く思った。

学校の教職員は、自分が当然の仕事として取り組んできた教育活動の「核」は、「子どもたち」で子どもたちがいるからこその「学校」なのだと改めて思い起こした。

〇子どもたちが一番待っているものは、「一人一人をよく見て教えて（対応して）」くれる教師の動きです。

〇教師が一人一人の子どもの学びの実際をよく見取り、その子の「よさ」を掘り起こし、褒めていくよう心掛ける。そのために一人一人の子どもへの心配り（マインド・mind）に努め、教室で子どもの学びの事実を見（看）取る力を磨くことです。

## 先輩教師の教え！

長野県で教員生活を 40 年、教育委員を 20 年務められた毛涯章平先生の言葉です。教師としての心構えや教訓など、示唆に富んだ言葉がまとめられています。

**《教師十戒》**

**①子どもを小馬鹿にするな。教師は無意識のうちに子どもを目下のものと見てしまう。子どもは、一個の人格として対等である。**

**②規則や権威で、子どもの四方を塞いでしまうな。必ず一方を開けてやれ。さもないと、子どもの心が窒息し、枯渇する。**

**③近くに来て、自分を取り巻く子たちの、その輪の外にいる子に目をむけてやれ。**

**④ほめる言葉も、叱る言葉も、真の愛語※であれ。愛語は、子どものこころに染みる。**
**※相手の身を思いやって吐き出す言葉**

**⑤暇をつくって、子どもと遊んでやれ。そこに、本当の子どもが見えてくる。**

**⑥成果を急ぐな。裏切られても、なお、信じて待て。教育は根くらべである。**

**⑦教師の力以上には、子どもは伸びない。精進を怠るな。**

**⑧教師は清明※の心を失うな。時には、ほっとする笑いと、安堵の気持ちを起こさせる心やりを忘れるな。不機嫌、不愛想は、子どもの心を暗くする。**
**※自然と明るく、ゆったりとすること**

**⑨子どもに素直に謝れる教師であれ。過ちはこちらにある。**

**⑩外傷は赤チンで治る。教師の与えた心の傷は、どうやって治すつもりか。**

## 「生徒指導の機能」を生かした学び・授業づくり！

### ～「主体的・対話的で深い学び」を実現するための基盤として～

「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、その基盤として、教職員と児童生徒の信頼関係や児童生徒相互の人間関係が良好であることが重要です。そのためには、「生徒指導の機能」を意識し、充実を図っていくことが求められます。日々の授業の中で、「生徒指導の機能」を生かした学び、授業づくりを進めましょう。

**《生徒指導の機能》**
**①自己決定の場を与える**
**②自己存在感を与える**
**③共感的人間関係を育成する。**

**◎主体的な学習を支える基盤づくり　～３つの機能を生かして～**

平成３１年度　南房総教育事務所「南房総の生徒指導」から

**○児童生徒がお互いに認め合えると･･･** → **教室に安心感が生まれます。**

↓

**○安心感が生まれた教室では･･･** → **自己表現がしやすくなります。**

↓

**○自己表現が意図的に行われると･･･** → **互いのよさや違いがわかります。**

↓

**○互いのよさや違いを理解すると･･･** → **認め合い・励まし合い・磨き合う活動が活発になります。**

↓

**「主体的・対話的で深い学び」につながります。**

教師と児童生徒の信頼関係と自己肯定感の高まりを基盤として、児童生徒が主体となって活動できるように、教師が場や機会を設定・準備する必要があります。教師が適切に関わり、必要なルールづくりなどの支援をしていくことが学級・学習集団づくりには不可欠です。

## 笑顔をベースに！

**※表面「先輩教師の教え」⑧に関連**

学校が再開し、子どもたちが戻った校舎内に響く笑い声に、やっぱり学校はいいところだと実感された先生方も多かったのではないでしょうか。授業の中でも笑い声が聞かれると安心するものです。笑い声が一度も聞かれない授業になっていないでしょうか？そのためには、教師の笑顔がベースにあります。いつも苦虫を噛みつぶしたような表情をして子どもと接していると、子どもたちの感情が負の方向になってしまいます。子どもたちは先生の行動や表情をよく見ています。先生の笑顔で、子どもたちは安心して授業を受けることができます。「表情」は意識ひとつで変えることができます。指導技術云々の前に、教師の基礎的な習慣のひとつとして「笑顔をベース」にを意識して教室に向かってみましょう！

**ロスタイム!!**

授業のロスタイムはないでしょうか？サッカーであれば延長もありますが、授業では休み時間まで伸ばすことは、好ましくありません。

○授業に遅れる子がいて全員がそろわない。教師の指導が入りさらにロスタイムが増える。悪循環です。基本は「待たない」ことです。そのための指導はもちろん必要です。教師が授業に遅れるのは論外です。